

安全データシート

ティッシュマーキングダイ スパチュラ 橙/紫

作成日:2019年3月1日

改訂日:2020年10月1日

1. 製品及び会社情報

| | |
|--------------|---------------------------|
| 製品名 | ティッシュマーキングダイ スパチュラ 橙/紫 |
| 製品コード | 302-700-6(橙)、302-700-7(紫) |
| 会社名 | 株式会社ファルマ |
| 住所 | 東京都渋谷区大山町 36-7 |
| 電話番号 | 03-6407-2570 |
| FAX番号 | 03-3465-0300 |
| 電子メールアドレス | tokyo@falma.co.jp |
| 緊急連絡先 | 080-8878-0242 |
| 推奨用途及び使用上の制限 | 試験研究用:病理組織用マーキング剤(橙/紫) |

2. 危険有害性の要約(製品の情報がいないため、成分のデータから区分を推定した)

GHS分類

| | | |
|-----------|------------------|-----------------------------|
| 健康に対する有害性 | 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 | 区分2 |
| | 生殖毒性 | 区分2 |
| | 特定標的臓器毒性(単回ばく露) | 区分2(呼吸器、 中枢神経系、 全身毒性) |
| | 特定標的臓器毒性(反復ばく露) | 区分2(血液系) |

上記以外の項目は、分類対象外、分類できない又は区分外

GHSラベル要素

絵表示



注意喚起語

警告

危険有害性情報

強い眼刺激

生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い

呼吸器、中枢神経系の障害、全身毒性のおそれ

長期にわたる又は反復ばく露による血液系の障害のおそれ

注意書き

安全対策

保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。

使用前に取扱説明書入手すること。

すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

| | |
|----------|--|
| 応急措置 | <p>蒸気を吸入しないこと。</p> <p>取扱い後は手などをよく洗うこと。</p> <p>皮膚に付着した場合、水で洗うこと。</p> <p>汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。</p> <p>眼に入った場合、水で数分間、注意深く洗うこと。コンタクトレンズを容易に外せる場合は外して洗うこと。その後も洗浄を続けること。</p> <p>眼の刺激が続く場合、医師の診察、手当を受けること。</p> <p>気分が悪いときは、医師の診察、手当を受けること。</p> <p>飲み込んだ場合、口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。</p> |
| 保管 廃棄 | <p>容器を密閉し、室温で施錠して保管すること。</p> <p>関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。</p> |

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別
成分及び濃度

混合物

| 成分 | 濃度 (%) | CAS 番号 | 官報公示整理番号 (化審法/安衛法) |
|--------------|--------|-----------|-----------------------|
| ①イソプロピルアルコール | <4 | 67-63-0 | (2)-207/2-(8)-319 |
| ②水酸化アンモニウム | <1 | 1336-21-6 | (1)-314/- |

4. 応急措置

| | |
|-----------|--|
| 吸入した場合 | <p>空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。</p> <p>気分が悪いときは、医師の診察、手当を受けること。</p> |
| 皮膚に付着した場合 | <p>水で洗うこと。</p> <p>汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。</p> <p>皮膚刺激が続く場合、医師の診察、手当を受けること。</p> |
| 眼に入った場合 | <p>水で数分間、注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。</p> <p>眼の刺激が続く場合、医師の診察、手当を受けること。</p> |
| 飲み込んだ場合 | <p>速やかに口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。</p> <p>気分が悪いときは、医師の診察、手当を受けること。</p> |

5. 火災時の措置

| | |
|----------|----------------------------|
| 消火剤 | 粉末、水、二酸化炭素 |
| 特有の危険有害性 | 火災時に刺激性又は有害なガスが発生するおそれがある。 |

特有の消火方法
消火を行う者の保護

危険でなければ火災区域から容器を移動する。
消火作業では、適切な保護具(手袋、眼鏡、マスク等)を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置
環境に対する注意事項
封じ込め、浄化の方法及び機材

作業には、必ず保護具(手袋・眼鏡・マスク等)を着用する。
必要に応じた換気を確保する。
漏出物を河川や下水に直接流してはならない。
不燃材料等で吸収し、密閉できる空容器に回収する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い
技術的対策
安全取扱注意事項
衛生対策
保管
安全な保管条件

取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。
保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。
取扱い後は手などをよく洗うこと。
容器を密閉し、施錠して室温で保管すること。

8. ばく露防止及び保護措置

| | ① | ② |
|--------------|-------------------------------------|-----------------------------------|
| 管理濃度 | 200 ppm | 未設定 |
| 許容濃度(2017年版) | | |
| 日本産業衛生学会 | 400 ppm(980 mg/m ³) | 25 ppm (17 mg/m ³) |
| ACGIH | TLV-TWA 200 ppm TLV-STEL 400 ppm | TLV-TWA 25 ppm TLV-STEL 35 ppm |

設備対策

取扱場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置すること。
局所排気装置を使用すること。

保護具

呼吸用保護具
手の保護具
眼の保護具
皮膚及び身体の保護具

必要に応じ、有機ガス及び蒸気用フィルター付きマスクなどの呼吸用保護具を着用すること。
保護手袋を着用すること。
保護眼鏡、保護面を着用すること。
必要に応じ、保護衣を着用すること。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状态

| | |
|--------------|-----------|
| 形状 | 粘稠性液体 |
| 色 | 橙または紫 |
| 臭い | 微臭 |
| pH | 8.5～10 |
| 融点・凝固点 | データなし |
| 沸点、初留点及び沸騰範囲 | >93℃ |
| 引火点 | >93℃ |
| 爆発範囲 | データなし |
| 蒸気圧 | データなし |
| 比重(密度) | 1.02～1.14 |
| 溶解度 | 水に溶解 |
| 自然発火温度 | データなし |
| 分解温度 | データなし |

10. 安定性及び反応性

| | |
|------------|------------|
| 反応性 | 安定 |
| 化学的安定性 | 通常の条件下で安定。 |
| 危険有害反応可能性 | データなし |
| 避けるべき条件 | なし |
| 混触危険物質 | データなし |
| 危険有害な分解生成物 | なし |

11. 有害性情報(製品の情報が無いため、成分のデータから区分を推定した)

急性毒性

経口 ②ラットのLD₅₀として、350 mg/kg(SIDS(2008))との報告に基づき区分 4。

製品の濃度から区分外

皮膚腐食性及び皮膚刺激性

②ウサギを用いた皮膚刺激性試験において、20%水溶液の適用により腐食性を示したとの報告があり(SIDS(2008))、強アルカリ性のため、眼や皮膚に対して腐食性を示すとの記載がある(SIDS(2008))ことから区分 1。

製品の濃度から区分外

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性

①SIDS(2002)、PATTY(6th, 2012)のウサギでの眼刺激性試験では、軽度から重度の刺激性の報告があるとの記述があるが、重篤な損傷性は記載されていないことから区分 2。

②強アルカリ性のため、眼や皮膚に対して腐食性を示すとの記載(SIDS(2008))や、粘膜に対して著しい刺激性を示すとの記載がある(HSDB(Access on June 2014))ことから

| | |
|--|---|
| <p>呼吸器感作性</p> <p>皮膚感作性</p> <p>生殖細胞変異原性</p> <p>発がん性</p> <p>生殖毒性</p> | <p>ら区分 1。</p> <p>製品の濃度から区分 2。</p> <p>データ不足のため分類できない。</p> <p>データ不足のため分類できない。</p> <p>データ不足のため分類できない。</p> <p>分類できない。</p> <p>①妊娠雌ラットにおける発生毒性試験において、胎児には軽微な影響が見られたのみで、母動物毒性(嗜眠、摂餌量及び体重増加量減少)がみられる用量で着床不全、全胚吸収など生殖毒性影響がみられている(PATTY(6th, 2012))ことから、分類ガイダンスに従い区分 2。</p> <p>②データ不足のため分類できない。</p> |
| <p>特定標的臓器毒性(単回ばく露)</p> | <p>①ヒトで急性中毒として中枢神経抑制、消化管への刺激性、循環器系への影響を含み、全身的に有害影響を生じる。また、吸入ばく露により鼻、喉への刺激性を示し((EHC 103(1990)、環境省リスク評価第 6 巻(2005))、気道刺激性を有することから、区分 1(中枢神経系、全身毒性)及び区分 3(気道刺激性)。</p> <p>②ヒトに気道刺激性があり、経口経路で口などに重度の腐食性がある(HSDB(Access on June 2014))。吸入ばく露や経皮ばく露で神経学的影響が知られている(ATSDR(2004))ことから区分 1(中枢神経系、呼吸器)。</p> <p>製品の濃度から区分 2(呼吸器、中枢神経系、全身毒性)。</p> |
| <p>特定標的臓器毒性(反復ばく露)</p> | <p>①ラットに蒸気を吸入ばく露した試験で、白血球数の減少、呼吸器、肝臓、脾臓に病理学的な影響が認められた(EHC 103(1990))との記述から、標的臓器は血液系、呼吸器、肝臓、脾臓であると判断し、区分 1(血液系)、区分 2(呼吸器、肝臓、脾臓)。</p> <p>②ヒトでの慢性ばく露による影響に関して報告はない。実験動物では、死亡例の発現(SIDS(2008))の記述があるが、詳細が不明で、データ不足のため分類できない。</p> <p>製品の濃度から区分 2(血液系)</p> |
| <p>吸引性呼吸器有害性</p> | <p>データ不足のため分類できない。</p> |

12. 環境影響情報

生態毒性

| | |
|---------------------|-------------------------------------|
| <p>水生環境有害性(急性)</p> | <p>①②有害性が認められるが、ごく少量であることから区分外。</p> |
| <p>水生環境有害性(長期間)</p> | <p>①②有害性が認められるが、ごく少量であることから区分外。</p> |

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。

汚染容器及び包装

容器は洗浄してリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。
空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国際規制

非該当

国内規制

非該当

注意事項

輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。
重量物を上積みしない。

15. 適用法令

労働安全衛生法

①②名称等を表示すべき危険有害物

①②名称等を通知すべき危険有害物

①②危険性又は有害性等を調査すべき物

上記内容は当社で入手可能な情報に基づいて作成していますが、記載データや評価に関しては、情報提供であり、いかなる保証をなすものではありません。未知の有害性があり得ますので、取扱には十分ご注意ください。